



2014 北海道トレセン U-13・14 春季キャンプ

【報告者】(公財)北海道サッカー協会
技術委員会 U-14 部会

文責:宮本英樹

会場:札幌サッカーアミューズメントパーク
東雁来公園人工芝サッカー場

2014年4月11日~13日

公益財団法人
北海道サッカー協会



1 事業の概要

4月11~13日までの2泊3日で、札幌サッカーアミューズメントパーク及び札幌東雁来運動公園を会場に、20名の選手(FP32名、GK4名)を招集し、スタッフ11名が参加してトレーニングとゲーム(U-14はvsコンサ札幌U-15)を行った。

北海道トレセンに初招集の選手もいたが、多くの選手は昨年度からの継続であるため、初日から比較的良い雰囲気でのトレーニングを行うことができた。宿舎内での生活も慣れている選手が多く、時間を意識した行動や、施設の使い方を工夫しながら過ごしている様子が伺えた。キャンプ終了後には、5月22日~25日に中札内村で行われるナショナルトレセン U-14に参加する選手の選考も行った。



メンバー

《U-14》

佐藤有悟	濱田雄也	中村友哉	飯野敬太
高島舜介	福田心乃助	野開ディラン	
山保璃空	宮脇健太	田中銀平	前川廉

(以上コンサドーレ札幌)

板谷直智	渡部有人	鴨川寛也	
------	------	------	--

(以上コンサドーレ旭川)

仁科宥哉	仁科星哉	(以上アンフィニ MAKI FC)	
------	------	-------------------	--

山田凌右	藤本詠稀	(以上 SSS)	
------	------	----------	--

高木謙 (北湘南 SSS)

鳴海虎汰朗 (プログレッシブ十勝)

《U-13》

大澤拓也	坂下桂悟	小山田凌	本間洋平
湯浅歓多	安田武士輝	鈴木雄万	浜田理久
田中光太	山本透衣	石黒尚	

(以上コンサドーレ札幌)

国田柁平	畠山侑丈	(以上アンフィニ MAKI FC)	
------	------	-------------------	--

渡辺丈也 (フォーザサッカークラブ)

前田陸王 (石狩 FC)

佐藤大河 (クラブフィールズ)

北海道での一貫指導をブロックトレセンから！！

日本代表とオリンピック代表を2015年までに輩出する！！

和歌山国体(2015)までには優勝を！！

2 U-14 について

3回のトレーニングで、それぞれ「ポゼッション」「崩し」「守備」をテーマに行った。

「ポゼッション」では、優先順位・前を向く・前向きを作りだすことを意識させたが、まだまだボール保持者への関わりが少なく、優先順位も「近い所」が優先になっている選手が多かった。試合中を意識しながらもう少し緊張感を持たせても良かった。

「崩し」については、北海道全体の課題であるとの認識から今回取り入れた。動きながらのパス&コントロールの質はまだまだ低く、パワーを持った仕掛けができないことが多かった。ハイプレッシャー下のゲームではより精度が落ちるため、継続したトレーニングが必要であると感じた。

「守備」については、「ボールを奪う」ことを強く意識した守備を目指した。その中で、相手を複数見られるようなポジショニング・パスの予測・奪い所の共有を意識させたことで、意図的に狙いを持って奪える場面が増えてきた。しかし、1 vs 1の対応が遅れたり簡単にはがされてしまうと、そこから後手に回ってしまうことがしばしば見られた。ポジショニング・アプローチ・判断・ステップワークなど、各々の質をより高めることが必要と感じた。

最終日(4月13日)の午前中に、コンサドーレ札幌 U-15 とのゲーム(30分×3本)を行った。ゲームへの入り方が悪く、開始早々に失点するなどチームとして活動していないことで難しい部分もあったが、攻撃では優先順位を意識したプレーが随所に見られ、フィニッシュまで繋がる場面が何度

もあった。また、逆サイドへの展開からゴールが生まれ、トレーニングで意識してきたことが結果につながり、昨年度からのレベルアップを感じることができた。しかし、優先順位を意識しながらも、相手の状況に応じた選択肢を持つことやボールを運ぶことで相手に変化を起こさせるなど、常に主導権を握った攻撃をすることやフィニッシュの精度についてはまだ課題が残る。

守備ではコンパクトさを保ちながら前線からプレスをかけ、ボールを奪う場面が増えた。しかし、切り替えの遅さやカウンターに対するリスクマネジメントには改善の余地があると感じた。もっと積極的に「奪いに行く」イメージを持ち、守備への意識を高めてほしい。



3 U-13 について

(1) 「パス&コントロール」

今回のキャンプではベーシックトレーニングとして、トライアングルパスを中心に「関わり続けること」をテーマに行った。

3日間を通して粘り強く続けたことで、決められた場所へ機械的に動くのではなく、ボールホルダーの状況に合わせてサポートの2人が互いに

ポジションを取り、関わりをもつことの必要性を理解させることができたと感じる。

2vs2 + 1F のトレーニングでは、回数を重ねるごとにサポートの質が上がり、それがゲームで生かされていた。

正確にプレーしよう意識している選手が多いので、その良さを生かしつつ、今後はさらに判断力やコントロールしてからのスピードをあげていくようトレーニングしていく必要がある。

(2) 「ポジション」

初日のゲームではボールを保持してから考える場面が多く、判断の遅さから囲まれてボールを奪われたり、慌てて意図のないロングキックで簡単にボールを失ったりする場面がみられた。また、狭い局面を無理に突破しようとする場面もあり、「ボールを失わずゴールを目指す」ことをテーマにトレーニングを行った。

トレーニングを通して、人やスペースなど「観る」ものが増えていき、ファーストタッチの質の向上や判断の速さへとつながり、ゴールへとつながっていった。

今後は仲間と連携をとり、より多くの選択肢をもつ（つくる）ことで、プレーの幅を広げ、より良い攻撃へとつなげてほしい。

(3) 「守備」

「チームで積極的にボールを奪う」ことをテーマに行った。

最初はアプローチやカバーリングの意識の低さが目立ち、攻撃側に自由にプレーさせている場面が多く見られた。しかし、トレーニングを積み重ねていくうちにグループでボールを奪うことが整理され、ファーストディフェンダーと連携

して、前線から追い込んでボールを奪う場面が増えていった。

ハードワークすることをいとわない選手が多く、トレーニングする度にプレーの質が向上していった。今後の課題は、マークの受け渡し。人につく習慣があり、スペースを見ながらも人を見て、最善のプレーが何かを判断し選択できるようになってほしいと感じた。

4

GKについて

3日間を通して、選手達は向上心を持ち集中してトレーニングを行ってくれた。

今回の GK トレーニングでは、限られた時間の中で「シュートストップ」と「GK の攻撃参加」の2つを中心に行った。

シュートストップではキャッチング・ローリングダウン・セービングを確認し、できるだけ多くのシュート数を受けられるようトレーニングを行った。各地域での GK キャンプ、GK トレセンの成果もあり基本的なキャッチング・ローリングダウン・セービングの技術は向上していると感じた。アングルシュートのトレーニングでは、ボールの移動中に自分自身のポジショニングが確認できないことが多々あり、その結果試合での失点につながってしまった。動きがある中でのポジショニングの確認の意識付けがもっと必要だと感じた。

攻撃参加のトレーニングでは、パス&コントロール、キック、スローイングの質の向上を目的に行った。パス&コントロールではファーストタッチのボールの置き所を確認したが、GK からのパ

スで攻撃が始まるという意識が選手に足りず、足下にボールを置き過ぎたり、パスが雑になってしまった。攻撃のスタートが GK からのパスで始まるという意識を選手一人一人が持ち、日々のトレーニングを重ねることが必要だと感じた。



5 成果と課題

3日間の合宿を通じ、ピッチ内外で選手は意欲的に取り組んでくれていました。昨年度からの継続の選手が多く、選手個人としても、全体としてもレベルアップしている部分が多くみられました。これは、トレセン活動だけでなく、各チームにおいてしっかりとトレーニングして頂いているおかげだと感謝しております。ただ、トレーニングの所で述べたとおり、「北海道の代表」で満足せず、「日本代表」をめざすのなら、攻守に関してもっと質を高めなければならないのも事実です。これは我々トレセンスタッフはもちろん、北海道全体で共有すべきことであると思います。

最後に、大変お忙しい中、選手派遣についてご協力頂いた各チームの指導者・保護者の皆様に大変感謝申し上げます。



スタッフ

U-14 TR チーフ 所桂太郎

責任者 宮本英樹

コーチ 宮崎貴宣 大年貴之 佐藤尽
伊藤佳史

U-13 TR チーフ 田中拓也

責任者 白崎健策

コーチ 國田英一郎 池内友彦 寺島徹